

本当の教えに出遇うことは「生きることから、「生かされる」ことへの大転換

# 無碍の一通 第43号

発行:2015年9月7日  
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺  
副住職 天野英昭  
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号  
TEL・fax(082)428-0160・(082)428-1360

## 秋彼岸法座

日 時 9月29日(火) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~11:30 暮席 13:00~15:00

ご講師 安国 真雄 師(志和町内区 西方寺住職)



## 第47回歎異抄輪読会

日 時 9月24日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

## 仏壮大からのお知らせ

★天龍寺佛教壮大年会 月例会 9月30日(水) 19:00~20:30

## 磯松天龍寺墓苑並びに磯松天龍寺墓苑合同墓合同参拝のお礼

今年も8月12日(水)の18:00から磯松天龍寺墓苑にて合同参拝をさせていただきました。また、今年は雨の中にも関わりませず、多くの方のご参拝をいただきましたこと感謝申し上げます。さらに過分なるお供えも頂戴しました事、重ねて感謝申し上げます。

合同参拝の際にも申しましたが、私は教員時代から雨も含め行事に支障をきたすような天候に遭う事が多くありました。父から今年は「おまえが導師をやってくれ」と言われた時に、「当日雨が降らなければいいのにな」と漠然と思っておりましたが、8月12日が近づくにつれ天気予報を見ましたら、雨マークが出ており「やはり雨か」と思ったことです。ある方が言って下さいましたが、『磯松天龍寺墓苑合同参拝も約30年が過ぎ、その中で一度も雨に遭わなかったのは、ある意味不思議な事だ。気にするな。』と温かいお言葉に感謝したしだいです。

当日法要を務めさせていただくために磯松天龍寺墓苑に行きますと雨にも関わらず多くの方のお姿を拝見して、大変ありがたい心持ちにさせていただきました。重ねて雨の中のご参拝ありがとうございました。

今後、この度の様に天候に恵まれないこともあろうかと存じますが、例年通りの多数のご参拝を念じ申し上げるしだいです。

## どの様な人生の中でも・・・・

仏教では『生活』という言葉を『生』と『活』に分けて考えます。日々、なんとか健康で働いてお金を得て過ごさせていただくこと等を仏教では『活』と言います。残念ながら私も含め多く方の人生は、今申しました『活』で一生を終わるのではないかと考える事があります。

4年前であったと思いますが、ご法事の席にて、他府県からご出席をされておられましたある方から「私は団塊の世代で家庭も顧みず働いてきた。だから定年したら、今までの罪滅ぼしも含め、家内と外国も含め色々な所に旅行に行くことを楽しみにしていた。それが定年をしてしばらくして家内が病で倒れ、一緒に旅行もする事が出来ず、今の様な介護をし、さらに介護疲れから体調を崩しながら、なんとか家内との生活をしているが、いったい自分の人生は何だったのかね。（現在は、奥様は元気になっておられます。）」

さらにある方がこの様な事を言われた事があります。「定年を迎したら数十年前の年金と同じ様に、多くの額をいただき、さぞかし素晴らしい余生が過ごせると思っていた。それが年金は減り、消費税が上がり、実質的には年金は減る一方だ。」

息子たちの世代に至っては、「どうせ年金もあてにならないし、僕たちは死ぬまで働かなくてはならないかも知れない。報われない人生だな・・・」

ご存じの方も多いと思いますが、日本の財政は危機に瀕しております。財政赤字が1000兆円を超える、なんとか日本人が貯蓄等をしている約1400兆円を担保に、辛うじて財政破綻は回避をしていると思う事があります。一方でいまだに日本は世界一の債権国であり、さらに企業などの内部留保も含め海外資産等も多くあり、簡単には日本の財政破綻は起こらないとあるアナリストの方が書いておられました。

話は変わり以前も書かせて頂きましたが、仏教では私たちは世間道を歩いていることになります。さらに世間道を歩いて行く際に、私たちは世間心を持って生きていると言われます。世間心とは

名聞（人に良く思われたい）・利養（お金をもうける）・勝他（他人に勝つ）で、世俗的な表現をすれば地位・名譽・財産に近いと思っております。これらの事を手に入れる事が、ある意味自分が満足する人生の一つなのかとも考える事があります。

しかし、お金をもうける方法の一つも、現在世界の金融市場で流通している1日のお金は約800兆円と言われます。冷めた言い方ですが、結局は毎日そのお金の奪い合いなのかとも思う事があります。

現生十種の益に『転悪成善・転悪成徳』があると細川先生が書いておられました。金子大栄先生は、この事を『災い転じて福となす』と表現しておられました。私たちは、毎日不安・苦しみ、悩み、悲しみ等に出遭いながら生きていかなくてはならない宿命を持った存在であると言われます。しかし、南無阿弥陀仏と共に生活をおくらさせていただく中で「あの苦しみ・悲しみ等があつて今の私の人生がある。」と少しでも感謝等が出来る人生がおくれたらと思う事があります。決してお金もうけは出来ず、名譽も得ず、時に昨今では、リストラされ明日が見えない日々を過ごし、毎日の生活に窮して生きていながら、私には遠い話の事だと思いますが、人生の全てのご縁を南無阿弥陀仏のご縁としていただき、この生死の苦海を渡らせていただければと思う事があります。

高飛車ながら、人間の価値観から考えますと辛い・苦しい等の人生かもしれません、『あのご縁も、このご縁も大切なご縁であった』と少しでも感謝していく人生は、違った視点から見ればありがたい人生観と受け止める事が出来ると思う事があります。